

誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

Re Start

福祉課（内線222）

Vol.33 中学生が保護司の活動を体験

毎年7月は「社会を明るくする運動月間」です。7月7日、市内の各中学校の代表生徒が「一日中学生保護司」を務め、イオンモール土岐で街頭啓発を行いました。

最初は緊張気味だった生徒たちは、買い物客と接する中で徐々に和らいだ表情に。明るく声を掛けながら啓発グッズを手渡すと、「受け取ってもらえてうれしかった」「あいさつの大切さを実感した」と、笑顔で話してくれました。

罪を犯した人の立ち直りを支え、再犯を防ぐためには、地域の理解と温かい支え合いが欠かせません。真っすぐに地域と向き合う中学生の姿を通じて、誰もがやり直せる社会について考えるきっかけになればと願っています。



人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

市民活動課（内線357）

自分らしく生きるということ ～トーベ・ヤンソンが遺した「愛」のカタチ～

世界中で愛され続ける「ムーミン」。その愛らしくもどこか哀愁漂う世界を生み出したのが、フィンランドの芸術家トーベ・ヤンソンです。作中の多様性に満ちた世界観の背景には、トーベ自身が歩んだ性的少数者としての人生と、当時の社会との葛藤が深く息づいています。

同性愛が犯罪とされていた20世紀半ば、トーベは生涯のパートナーをモデルにした「トゥーティッキ」を物語に登場させました。「あらゆるものは、きみが見るのとは、ちがっているんだよ」

これはトゥーティッキの作中のセリフです。「世界にはあなたの知らない見え方がたくさんある」という視点は、偏見のあった社会の中で二人が貫いた生き方そのものでした。

孤独を愛する者や、性別の判然としない者が、それぞれ心地よい距離感で暮らすムーミン谷。「誰かを愛することにラベルなんて必要ない」というシンプルな真実は、多様性の模索を続ける現代の私たちに、今もなお優しく強く語りかけています。

土岐商写真部×広報とき

土岐の写真撮り隊 Vol.40 「夏の面影」

たくさんの緑に囲まれている、うつむいたひまわりを撮りました。ひまわりも夏の暑さに前へ傾いてしまっています。夏から秋への季節の移ろいを感じさせてくれる1枚です。

撮影班：二年生：岡崎^{ももか}萌楓・松田^{るあ}琉愛